

令和 3 年 8 月 23 日現在

機関番号：32689

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2017～2020

課題番号：16KK0088

研究課題名（和文）Global Labor Mobility and the Changing Meanings of Work: A Comparative Study of Germany and Japan（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Global Labor Mobility and the Changing Meanings of Work: A Comparative Study of Germany and Japan(Fostering Joint International Research)

研究代表者

FARRER GRACIA (Farrer, Gracia)

早稲田大学・国際学院（アジア太平洋研究科）・教授

研究者番号：70436062

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,600,000円

渡航期間： 8ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本とドイツにおける高学歴の外国人労働者の雇用と職業経験を比較する。インタビュー調査とアンケート調査を通じて、両国において外国人労働者が企業への就職を希望する際、制度的・文化的な壁に直面することを示した。ドイツでは具体的な技術を求める雇用主の要求が外国人労働者の就職には不利に働く。日本では採用過程で文化的要件が外国人の競争力を弱める。結果として、ドイツと日本の両国において外国人労働者は参入基準が低い部門や中小企業に雇用することになる。これは自国民労働者と外国人労働者の間に労働市場が分離していることを示し、外国人材をより受け入れるためには雇用制度を変える必要性があることを示唆する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究結果は、これまで日本企業の中で観察されてきた高学歴外国人労働者における困難が日本だけの問題ではないことを示している。メカニズムは異なるが、多くの国家における雇用システムと流動的なグローバル労働力との間のキャリア構造には本質的な問題がある。このようなメカニズムを明らかにすることで、本研究は日本企業が外国人労働者を採用する際の問題解決のための方法を究明するのに役立つ。また、政府の移住政策だけでは人的資源における目標を達成するのに十分ではないことを示す。さらに、仕事が人々の移動の重要な要因になるのは確かであるが、場所との関係は、その場所における各人の社会的生活や交友関係にも影響を受けている。

研究成果の概要（英文）：This study compares educated foreign workers' employment and career experiences in Japan and Germany. Through qualitative interviews with foreign workers and employers in both countries and a survey among employees (in Japan), this study indicates that foreign workers in both countries face institutional and cultural barriers when seeking corporate employment. In Germany, employers' demands for specific skills as well as specialized credentials and training disadvantage foreign workers. In Japan, the language and cultural requirements during the process of recruitment weaken foreigners' competitiveness. Consequently, in both Germany and Japan, foreign workers are likely to enter sectors with lower entry threshold, e.g. e-commerce, small firm or firms where their cultural skills are needed. This points to the emerging labor market segmentation between native and foreign workers, and indicates the need to change the employment systems in order to better absorb foreign talent.

研究分野：社会学

キーワード：国際労働移動 高学歴外国人労働者 外国人労働者 ダイバーシティ 日系企業 ドイツ企業

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

この国際共同研究加速基金プロジェクトは高学歴外国人の日本・ドイツ労働市場における経験とキャリア形成を調査するために行われた。本プロジェクトは科研費プロジェクト（基盤 C15 K03884: Beyond Multiculturalism: Organizational Logics and Cultural Practices at Japanese Workplaces）に続くものである。科研基盤 C プロジェクトは、日本企業がどのように外国人材を受け入れているのか、そして外国人専門職従事者がどのように日本の組織でキャリアを進展させるのかを調査した。先行研究によると、高度に熟練した外国人専門人材を誘致し・維持させるための政策が日本政府にはあるにもかかわらず、外国人従業員の離職率は高く、日本企業内では昇進・昇格がほとんどないという。このような現象は外国人従業員の職業やキャリアに対する期待と、日本企業での仕事やキャリア構築の方式の間における乖離によると解釈される。外国人従業員と雇用主は、仕事は何を意味するのか、キャリアをどのように発展し、人生の中でどのように位置づけるのか、時間をどのように管理するのか、そして生活と仕事の境界線をどこで引くのかについて、互いに異なる考えを有している。このような差は職場関係に影響を及ぼし、外国人従業員と日本人従業員との間に衝突を引き起こし、このままでは組織が外国人材を統合できなくなる。

本研究は、日本における外国人従業員のキャリアの問題が日本企業の「保守的文化」や「経営問題」にあるという理論は単純すぎると考える。実際に、日本の労働市場におけるキャリアとグローバル労働市場におけるキャリアの構築の仕組みは異なっている。また、企業が中心の日本人の労働市場と外国人従業員が所属するトランスナショナル/グローバルな外部労働市場はそれぞれに異なる仕事への意味づけとキャリア構築のパターンを形成している。

一方で、外国人におけるキャリア上の困難は必ずしも日本だけの問題ではない。本研究は労働流動性に関する海外研究との比較により、日本だけがこの課題に直面しているのではないということを見出した。そして、国際共同研究による事例比較研究を通して、グローバル化する労働市場における職業の意味と職業組織の変化に対する理解を深化させ、理論的に発展させるためにドイツで研究を行った。ドイツを研究対象として選んだ理由は、ドイツの伝統的企業における内部労働市場の構造や労働関係のパターンが日本企業と類似しているからである。しかし、日本と違い、ドイツはヨーロッパで最も魅力的な移住先の一つとなっている。専門職移住者がどのようにドイツの職場を経験し、ドイツ企業が移住可能性のある従業員をどのように扱っているのかという問いは重点的に調査すべき研究課題でもあった。

2. 研究の目的

この共同国際研究は、外国人材がホスト労働市場に参入した過程、位置付け、企業や組織内あるいは組織全体で自身のキャリアをどのように発展させたのか、そしてこれら二国での就労経験をどのように評価したのかを実証的に説明するため、ドイツと日本の事例を比較した。日本とドイツの企業がそれぞれ外国人労働力の受け入れにどのように取り組んできたのか、そしてどのような難題に直面してきたのかを明らかにすることを目指した。この国際共同研究は、様々な雇用および訓練システムにおける採用過程と就労経験を説明し、日本に焦点を当てたプロジェクトをより理論的な調査へと昇華させた。この理論的調査は、グローバルな労働力と国内労働市場（国内労働力のために発展した雇用システム）との関係に関する調査でもある。

3. 研究の方法

本研究プロジェクトは主にインタビュー調査法を取り、政府報告書、統計資料、民間マーケティング会社の外国人熟練労働者と留学生の労働市場への移行に関する調査を補足的に用いた。2020 年は、COVID-19 による移動制限があったため、日本在住の外国人従業員に対する調査に残りの資金を使用した。

日本とドイツ両国でインタビュー調査を行った。日本でのインタビューは、2015-2017 年の基盤 C プロジェクトにおいてほぼ終了した。国際共同研究加速基金の資金は主にドイツでのデータ収集に用いた。ドイツ現地調査では、Duisburg-Essen 大学に所属している Karen Shire 教授またドイツ人リサーチアシスタントの協力で、外国人従業員 25 人、二つのドイツ大学のキャリア進路担当者 5 人、そしてドイツ企業 2 社の人事担当者たちにインタビューを行った。インタビュー対象者は個人的なネットワーク、スノーボールサンプリングなどを通じて確保し、中国語、英語、ドイツ語でインタビューを行った。インタビュー対象者は当時 24 歳から 35 歳だった。EU 加盟国間の域内の移動の自由によって EU 加盟国出身者は留学ビザや就労ビザを取得する必要がなかったことと、ドイツの政策が EU 加盟国以外の学生や熟練労働者の誘致に焦点を当てたため、この研究では EU 加盟国以外の移住者に焦点を当てていたが、結果的には EU 加盟国出身の移住者と非 EU 国出身の移住者の両方にインタビューを行った。EU 加盟国出身の移住者はベルギー、イタリア、フランス、ハンガリー、スウェーデンなどの出身で、非 EU 国出身の移住者は東アジアや東南アジア、南アジア、中東、欧州（ロシア）出身であった。

政府、その他の機関の報告書・データの主な出所は、ドイツの Bundesministerium des Innern（連邦内務省）、Bundesamt für Migration und Flüchtlinge（連邦移住難民事務所）、マッキンゼー、日本の法務省、日本労働政策研究所、リクルート、パーソルのような民間企業などである。

アンケート調査は、Cross-M Marketing が 2020 年 10 月にオンラインで実施し、日本に勤務している外国人従業員 600 人余りのサンプルを国籍・職種別に収集したものである。ここには、人口統計学的資料、教育・雇用の履歴、企業の特徴、COVID-19 以前及び調査当時の勤務経験に対する評価などが報告されている。

4. 研究成果

この国際共同研究は、21 世紀のグローバル化労働市場における個人と、20 世紀半ばの発展において主に国内労働力に依存してきた日本とドイツの雇用制度間の困難な関係について、重要な洞察を提供できた。また、研究代表者は現地調査の過程で、今まで探求されなかった現象を発見した。一部の外国人専門職従事者は、移住した国で自分のキャリアについて完全に満足していなくてもその場所からは離れていなかった。そのため、本プロジェクトに次のような問いを加えた。高学歴の外国人移住者の移動を形成したのは何か、そしてそのような意思決定はキャリアやその他の生活面とどのように結びついているのか。

外国人専門職従事者のキャリアについての主な研究結果は「Who are the fittest? The question of skills in national employment systems in an age of global labour mobility,」(Journal of Ethnic and Migration Studies, 47:10, 2305-2322, DOI: 10.1080/1369183X.2020.1731987)」という論文でまとめられている。この論文は日本・ドイツ両国が労働市場で維持しようとする、外国人留学生の卒業後の就労やキャリアの軌跡に焦点を当てた。日本とドイツにおいて外国人留学生や熟練移民者に対する入国管理が緩和されたにもかかわらず、なぜ少数の外国人留学生のみが卒業後労働市場に残り、仕事を得ているかを調べた。分析の結果、ドイツや日本では外国人卒業生に自国民労働者と同じスキルや同じ行動様式を期待していることが分かった。移民受け入れ国に留学し、一部の言語や文化的スキルを習得したとしても、外国人留学生には卒業後も大きな文化的同化への期待と労働市場における構造的制約があるため、期待とは異なる結果が生ずることになる。日本では筆記試験や複数の面接などの採用過程を通じて、雇用主が採用応募者の言語能力と文化的適合性を評価する機会が多い。ドイツでは、オンライン求職ポータルアルゴリズムが条件に合わない外国人求職者を審査から除外するように機能している。

また、外国人労働者と自国民労働者の間の労働市場細分化現象を見出した。ドイツでは工学を専攻した外国人留学生は卒業後、派遣会社に就職したり、中小企業に就職する可能性が高いが、自国民労働者は制限のない雇用契約で大手企業に就職する可能性が高い。ドイツの経済学・社会科学を専攻した外国人留学生の卒業後のケースと日本のケースでは、英語力だけでなく母国語能力が技能として評価されるニッチな職業に就くことが多い。いずれの場合も、知名度が低く、賃金の低い中小企業が主な雇用先となっている。そのため、外国人留学生は卒業後、国内の熟練労働者が拒む労働市場の一部に集中している。

また、ドイツと日本で働く外国人留学生は卒業後、企業別のキャリア論理に適応して得た長期的な成果には不満を抱いている。企業固有のスキルは移転ができないため、このようなスキル形成システムは転職時には役に立たない。企業内独自の訓練制度は、雇用が安定して成長している国家経済や国内労働市場では意味がある。しかし、多様な文化的技術を生み出したり、よりリスクがある国際ビジネス環境には適していない。さらに、両国の職場は自国民中心であり、程度の差はあっても結果的に外国人労働者にとっては社会的、文化的に魅力がない。

移住の意思決定メカニズムは、研究代表者がブリッセル自由大学の Asuncion Freznosa-Flot 氏と共同で編集している書籍の一つの章に提示されている。「Emotions, Places, and Mobilities:

the Affective Drives of the Migration and Settlement Aspirations among Highly Educated Migrants」というタイトルのこの章では、ドイツと日本の外国人移住者に対する定性的インタビュー調査に基づき、移住は幅広い条件、例えば、実利的なインセンティブから法的制度、また予測可能な結果から偶然の遭遇などの条件などによって決定される過程であると主張する。移住の軌道は個人の社会的流動性や生涯（ライフコース）とも絡み合っている。本章は、まず、移住が基本的に場所の選択であることを示している。移住は場所に対する様々な感情をもたらし、そういう感情が現実的な条件と同時に移住の意思決定に影響を及ぼす。否定的な感情はしばしば重大な懸念となり、その場所を離れる主な動機となる。対照的に、その場所に満足すれば、移住者は移動することに対して保守的になる傾向がある。第二に、この研究は移住決定における親密な人間関係が占める重要な位置を強調する。例えば、恋愛関係は移住者のある場所から離れさせたり、その場所に滞在させたりすることができる。感情は時々関係の中で絡み合うため、相手の感情も移住決定に影響を及ぼす。最後に、本章はドイツと日本、両国が地政学的に異なる地域に位置し、社会文化と制度的背景が異なるにもかかわらず、場所が感情的な反応を生み出し、人々の移住決定に影響を与えると説明する。両国の移住者の移住機会や軌道の方向は異なるが、移住と定着の情緒的な動機の重要さは両国で観察される。移住者がどこにいたとしても、恋愛関係であれ、社会的関係であれ、親密さは必要である。また、職場であれ、社会人サークルであれ、他者からの認知を求める。さらに移住者は、安全を提供すると同時に多様な感情的ニーズを満たすことができる場所を探す。

以上のとおり、本研究プロジェクトは日本企業の中で観察されてきた高学歴外国人労働

者が抱える困難が日本だけの問題ではないことを示している。メカニズムは異なるかもしれないが、全世界の国家における雇用システム、特に産業発展が熟練した国内労働力に依存しているシステムでは、ますます流動的な労働力を受け入れるために試行錯誤がなされるであろう。目的を達成するためには、これらの国家における企業が文化的障壁を低くし、訓練と雇用システムにおける柔軟性をより確保しなければならない。一方、本研究は仕事は移動や滞在の重要な理由でもあるが、人々の移動を左右する唯一の要因でないことも示した。場所と個人の関係はまた、その場所における各人の社会的生活や交友関係によって影響を受けるのである

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 4件／うちオープンアクセス 3件）

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 Liu-Farrer Gracia, Yeoh Brenda S., Baas Michiel | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 Social construction of skill: an analytical approach toward the question of skill in cross-border labour mobilities | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Ethnic and Migration Studies | 6. 最初と最後の頁 1~15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/1369183X.2020.1731983 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Liu-Farrer Gracia, Shire Karen | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 Who are the fittest? The question of skills in national employment systems in an age of global labour mobility | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Ethnic and Migration Studies | 6. 最初と最後の頁 1~18 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/1369183X.2020.1731987 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Liu-Farrer, Gracia | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 Japan and Immigration: Looking Beyond the Tokyo Olympics | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal-Japan Focus | 6. 最初と最後の頁 1-10 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 Liu-Farrer, Gracia and An Huy Tran | 4. 巻 57 |
| 2. 論文標題 Bridging the Institutional Gaps: International Education as a Migration Industry | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 International Migration | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/imig.12543 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Liu-Farrer, Gracia and Helena Hof | 4. 巻 34 |
| 2. 論文標題 Otebyo: the Problems of Japanese Firms and the Problematic Elite Aspirations | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Asia-Pacific Studies (Waseda University) | 6. 最初と最後の頁 65-84 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 ファーラー グラシア | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 制約下のモビリティ：ニューカマー外国人の経済的成果が異なる理由とは | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 アジア太平洋討究 | 6. 最初と最後の頁 23-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計8件(うち招待講演 3件/うち国際学会 3件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 Liu-Farrer, Gracia |
| 2. 発表標題 Looking for the Right Place: Exploring the Affective Motives of Multi-national Migration |
| 3. 学会等名 International Convention of Asia Scholars (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Gracia Liu-Farrer |
| 2. 発表標題 Migration, Investment, and social Mobility: two recent trends of migration from China |
| 3. 学会等名 Oxford University-Reproduction Migrations in the Asia Pacific Seminars (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Gracia Liu-Farrer |
| 2. 発表標題 Looking for the Right Place: Emotions and Intimacies in the Mobility Decision Making among Professional Migrants in Japan and Germany |
| 3. 学会等名 Workshop on Intimacy, sexuality and family in the process of migration: European Asian experiences compared, Universit#233; libre de Bruxelles (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Gracia Liu-Farrer |
| 2. 発表標題 Looking for the Right Place: Emotions in the Mobility Decision Making among Highly Skilled Migrants in Japan and Germany |
| 3. 学会等名 International workshop on Multinational migration, National University of Singapore (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Gracia Liu-Farrer |
| 2. 発表標題 The Question of Attraction: Career Mobility and Geographic Mobility of Skilled Migrants in Japan |
| 3. 学会等名 International Workshop on Skilled Labor Mobility: Japan and Beyond. January 17, 2017, Waseda University. |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Gracia Liu-Farrer, Helena Hof |
| 2. 発表標題 The Meanings of Work and the Desires for Life: Exploring Career and Geographic Mobilities of Young Immigrant Professionals in Japan |
| 3. 学会等名 International Convention of Asia Scholars (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Helena Hof, Gracia Liu-Farrer |
| 2. 発表標題 Women in Japanese Workplaces in Japan and Beyond: Contesting Corporate Culture and Gender Boundaries in Globalizing Times |
| 3. 学会等名 Association of Asian Studies Conference (AAS) in Asia (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Gracia Liu-Farrer, An Huy Tran |
| 2. 発表標題 Brokered Education: the Migration Industry in Student Mobility |
| 3. 学会等名 Workshop on the Migration Industry: Facilitators and Brokerage in Asia Asia Research Institute, National University of Singapore, 1-2 June 2017. |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Liu-Farrer, Gracia | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Cornell University Press | 5. 総ページ数 276 |
| 3. 書名 Immigrant Japan: Mobility and Belonging in an Ethno-nationalist Society | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

2019. Ozgen, C., Liu-Farrer, G., Cole, M., Green, A. (2019) 'Economic Migration in the UK and Japan Examining the Roles of Labour Shortages, Automation, Migration Policy and Demographic Aging', IRiS Working Paper Series, No. 32/2019. Birmingham: Institute for Research into Super-diversity

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|---------------------------|---------------------------|----|
| 主たる渡航先の主たる海外共同研究者 | シャアー カーレン | デュースブルク・エッセン大学・東アジア研究院・教授 | |
| | (Shire Karen) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|--|--------------------|
| 国際研究集会 The Question of Skill in Cross-border Labor Mobility | 開催年 2018年～2018年 |
|--|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | |
|---------|------------------------------|--|--|
| ドイツ | University of Duisburg-Essen | | |